

ベルマーク新聞 11月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

私だけのプテラノドン、出来た!

 和歌山・海南市立日方小で宮西達也さんのオーサー・ビジット

「おっばい、好きな人は?」「……」「あれ? みんなうそついてるでしょ」

和歌山県海南市の市立日方小学校(西村充司校長、児童163人)で10月16日、作家が学校を訪ねて特別な授業をする朝日新聞の人気企画「オーサー・ビジット」のベルマーク版が始まりました。講師は絵本作家の宮西達也さんです。



最初はスライドを使って自作を読み聞かせ。1990年発行「おっばい」をとりあげた際の問いかけに、6年生28人はみんなシーン。そこで宮西さんは矛先を変えます。「先生、うそついちゃダメって教えてますよね。先生はおっばいが好きですか?」。6年担任の森本浩輝先生は「はい」と大きな声で答えました。

「おっばいは、いやらしくないの。本当に素敵なんですよ」。人間や動物の子どもがおっばいを求める姿を描いた、心温まる絵本です。

読み聞かせの後は作品作り。何を作るのかは当日まで秘密です。みんなの前に宮西さんが持ち出したのは——なんと、ひもで吊るして飛ばせる翼竜のプテラノドン。「わあーっ」「おーっ」。子どもたちは歓声をあげました。



材料は赤黄青緑の4色の画用紙。好きな色を2枚持ち帰り、1枚を丸めて胴体に、もう1枚で翼やトサカ、手足などを作ります。ガムテープも4色あります。宮西さんは各テーブルを回り、作業のアドバイス。みんなが作るプテラノドンは実に個性的で、ひとつとして同じものは

ありません。指示とは違うやり方で進めている子もいましたが、宮西さんは「これもいいねえ」と笑顔で応援します。1時間ほどで、ほぼ形が出来上がりました。予定時間を過ぎてしまったため、吊るための糸は先生の協力で後で付けることになりました。



最後に宮西さんは、自分が絵本作家を目指し、実際にそうなるまでの道のりを話しました。子どもの頃から好きだった絵を描きたくて会社を辞め、苦労を重ねながらも、ある編集者に見出されてデビューしたいきさつを語り、「みんな、夢のために頑張ってください。助けてくれる人はいます」。とはいえ、あきらめたり、頑張るのがいやになったりしたら、

夢はかなわない、とも。

そして「勉強は人と比べることができても、感性は比べられません。一人一人がいいものを持っています。それが面白い。それを認め合ってください。感性を育ててください」と話しました。

最後に児童代表の児玉結以奈さんが「なぜ作家になったか、という話が心に残りました。楽しくて、あっという間に時間が過ぎました。下級生にも今日のことを伝えたいと思います」と述べて授業は終わりました。開始時のあいさつを担当した丸山尚子さんは「宮西先生は怖いかと思ったら、めちゃくちゃやさしくていい人。作品は私の相棒として大切にします」と話してくれました。

6年生のみなさん、
楽しい思い出ができましたね



「HPで預金残高の確認」システム開発中

 来年4月開始予定、登録名とPTA番号が必要

ベルマーク預金の残高は、今までは年1回はがきでお知らせするほか、電話等でお問い合わせいただくしかありませんでした。これを、いつでも財団HPから確認できる仕組みにするべく、現在開発を進めています。順調に進めば2021年4月から運用を始めます。

今年10月に参加団体にお送りした残高通知のはがきにも、そのお知らせを掲載しました。そこに記したように、HPで残高を見るには、各学校・団体の正式な登録名と、7ケタの番号(PTA番号)が必要になります。登録名は、この残高通知はがきなど、財団からお送りする郵

便物のあて名として使っているものです。

表示する金額は、直近のお買いものの支払い状況や検収結果も加味した「使用可能金額」です。これは現在のはがきでお知らせしているものと同じです。入力画面などの仕様は決まり次第、詳しくお知らせいたします。